

教科（科目）	国語	学年（系）	1年
使用教科書	国語1（光村図書）		
副教材等	書きたくなるアシスト常用漢字（数研出版）／中学必修テキスト1年（文理）／学習の達成＋記述に役立つミニスキル1年（新学社）／「つまづかない！文法の学習」（新学社）／新訂国語図説 五訂版（京都書房）		

1 学習目標

- ・ 社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- ・ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものに行うことができるようにする。
- ・ 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 指導の重点

- ・ 文章を的確に読解する力の習得を目指す。
- ・ 漢字や語句の意味などの基礎的な知識の定着を目指す。
- ・ 主体的に考える力と表現する力の育成を目指す。

3 指導計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	備考
4	言葉に出会うために	・「朝のリレー」 ・「野原はうたう」 ・声を届ける／書き留める／言葉を調べる	【知・技】 ・速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫しながら音読する。 ・情景や心情を表す表現に応じて、音読のしかたを工夫する。 ・聞き手を意識して速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫する。	6	
5	1 学びをひらく	・「はじまりの風」 ・情報を的確に聞き取る ・季節のしおり春 ・情報処理比較・分類 ・漢字の組み立てと部首	【知・技】登場人物の心情や行動を表す言葉に着目して作品を読み進める。 【思・判・表】場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉える。 【思・判・表】 ・日常の話題について、情報を整理し、聞き取る内容を考える。	12	
6	3 新しい視点で	・「ダイコンは大きな根？」 ・「ちょっと立ち止まって」	【知・技】本文中で比較がどのように使われているかを理解する。 【思・判・表】「問い」と「答え」から中心的な部分を捉え、筆者の主張を理解する。 【知・技】筆者の主張と事例との関係を理解する。 【思・判・表】序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉える。	14	前期中間 考査
7	3 言葉に立ち止まる	・「空の詩 三編」 ・「比喻で広がる言葉の世界」 ・「指示する語句と接続する語句」 ・「言葉のまとまりを考えよう」	【知・技】 ・詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を豊かにする。 ・表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。 【思・判・表】 ・詩に描かれている情景を想像し、表現の効果を考える。 ・自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書く。	12	
9	4 心の動き	・物語「大人になれなかった弟たちに……」 ・物語「星の花が	【知・技】戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解する。 【思・判・表】描写に着目して、登場人物の行動や心情の変化を捉える。 【知・技】様子や動きを何かにとれた表現	14	前期期末 考査

		降るころに」	を探し、どのような情景や気持ちをたとえているのか考える。 【思・判・表】場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深める。		
10	5 筋道を立てて	・「言葉をもつ鳥、シジュウカラ ・根拠を明確にして書こう	【知・技】筆者がどのような事実を基にどのような仮説を立てたかについて、理解する。 【思・判・表】筆者の意見と、それを支える根拠との関係を考える。 【思・判・表】根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。	16	
11	6 いにしえの心にふれる	・「いろは歌」 ・「蓬萊の玉の枝」 ・「今に生きる言葉」	【知・技】 ・言葉の調子や間の取り方などを意識して音読する。 【知・技】音読に必要な文語のきまり、古文特有のリズムについて理解し、その世界に親しむ。 【思・判・表】「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の関係や思いに着目して読み、現代の自分たちと比べ、古典の世界と現代の人々に共通する部分を考える。 【知・技】音読に必要な文語のきまり、漢文特有のリズムや言い回しなどについて理解する。 【思・判・表】 ・故事を調べ、どんな意味に使われるようになったか説明する。 ・「矛盾」と自分の体験とを重ねて、書く内容の中心が明確になるように文章の展開や構成を考える。	16	後期中間 考查
12	7 価値を見いだす	・「『不便』の価値を見つめ直す ・単語の性質を見つけよう	【知・技】 ・意見と根拠の関係に着目して、必要な情報を取り出し、整理する。 ・要約するための情報の整理のしかたを理解し、自分の考えをまとめるときに要約や引用を明確に示す。 ・「単語の分類」「品詞」「体言と用言」について、理解を深める。 【思・判・表】 ・目的に沿って必要な情報を結び付け、要約する。	12	
1	8 自分を見つめる	・小説「少年の日の思い出」	【知・技】場面描写の言葉や登場人物の心情を表す言葉に着目して読む。 【思・判・表】 ・時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉え、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめる。 ・登場人物の考え方や感じ方について、自分の考えをもつ。 ・別の人物を選び、その人物の心情や行動が明確になるように構成や展開を工夫して書く。	14	
2		・「二十歳になった日」 ・さまざまな表現技法 ・漢字の成り立ち	【思・判・表】特に印象に残った語句や表現を挙げる。 ・構成や表現の効果に着目することで、随筆のどんな特徴に気づいたか、自分の言葉でまとめる。 【知・技】 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解する。 ・漢字の成り立ちについて理解し、漢和辞典を使って調べる。	12	後期期末 考查
3		・一年間の学びを振り返ろう ・「ぼくがここに」	【知・技】 ・声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながら発表する。 ・情報の整理のしかたを理解し、要点をわかりやすくフリップにまとめる。 【思・判・表】 ・聞き手や場に応じて、発表の言葉や表現を	12	

		変えるなどの工夫をする。 ・「観点」に見合った情報を集め整理し、内容が伝わる端的な言葉をフリップに書く。 【知・技】詩に用いられている表現の技法を理解して使う。 【思・判・表】詩の解釈を通して理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。		
--	--	--	--	--

計 140時間(48分授業)

4 課題・提出物等

平日課題、週末課題

5 評価規準と評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 考査および小テストの漢字や文法など言語に関する問題の達成状況 ・ 考査および小テストの「知識」に関する問題の達成状況 ・ 長期休業明けの課題テストなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考査および小テストの読むことに関する問題の達成状況 ・ 考査および小テストの書くことに関する問題の達成状況 ・ 聞き取りテストの達成状況 ・ 授業での表現に関する活動(話し合い活動、発表等)の内容 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への参加状況 ・ 課題の提出率 ・ 小テストの達成状況 ・ 授業での表現に関する活動(話し合い活動、発表等)への取り組み方 	<評定> 達成率(各観点の合計点に対して) 5…80%以上 4…70%以上 3…50%以上 2…40%以上 1…40%未満
各観点は達成率に応じて3段階で評価する。 A 十分に満足できる … 75%以上 B おおむね満足できる … 50%以上 C 努力を要する … 49%以下			

6 担当者からの一言

中学校における国語学習の基礎・基本を身につけ、正確に文章を読み取り、的確に伝え合うことを重視した授業を行います。評価は、授業への取り組み(授業態度、発表、学習活動への参加状況)、課題の提出、定期考査、小テストなどから総合的に判断します。普段の授業から積極的な態度で取り組んでください。